

## おわりに

令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練における訓練計画作成に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、度重なる計画変更を余儀なくされ、最終的に実動訓練を中止するという苦渋の決断をせざるを得ない状況となりましたが、本業務に携われたことは大変貴重な経験となりました。

計画した訓練が実施できなかったことは本当に残念でしたが、これまでのブロック訓練では行われていなかった「Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練」や「宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練及び実証試験」の実施により、今後の緊急消防援助隊の活動における選択肢を増やすことができたものと考えています。

「Web会議システムを活用した状況予測型図上訓練」では、Web会議システムがそれぞれの機関に居ながら災害の状況を映像で確認し、対面で情報共有できる有効なツールであると評価いただきました。すでに消防本部や都道府県単位でWeb会議システム等を活用し、消防機関との迅速な連携や消防機関の初動対応のスピードアップに繋げている事例も見受けられ、今後一層の拡大が期待されます。

近年、緊急消防援助隊の出動が増加し、今後も地震、豪雨、噴火、テロなど様々な災害の発生が予想されています。大規模災害時の通信インフラの被災は、Web会議システムだけでなくDJSやSJKなどの多くのシステムに影響する課題であり、応受援の規模に関わらず災害の状況を迅速に分かりやすく伝え、円滑な調整を実施するためには、全国的に統一されたシステムの構築や災害に強い通信環境も重要であると考えます。

「宿営活動時の長野県実行委員会モデルの提案と資機材等展示・訓練及び実証試験」では、特に新型コロナウイルスの感染防止と女性消防吏員が緊急消防援助隊に派遣される際の課題を踏まえ、ソロテントによる宿営を提案し、密状態の回避による感染防止やプライベート空間の確保等の効果とともに、設営負担の軽減や体育館等の広い屋内での使用も有効との御意見もいただきました。

県内消防本部の御協力をいただき、気温がマイナス（最高気温 $-1^{\circ}\text{C}$ 、最低気温 $-10^{\circ}\text{C}$ ）の極寒の中で実証試験を行うことで、適切なテントのサイズや疲労回復度合い等について確認することができました。気象や宿営場所によって条件は異なりますが、隊員が安全に最大限能力を発揮して活動をするためには、宿営環境の改善を図ることも必要です。

利便性の高い有効なツールの導入や宿営環境の改善は、関係機関や隊員の対応力の向上と被災地での迅速で安全な消防活動に繋がります。今後も訓練や実災害を通じて継続した検証と連携を図り、緊急消防援助隊の体制強化が進むことを願います。

最後に、令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練の実施と、この実施報告書の作成に当たり、多大な御支援と御協力をいただきました各都県関係機関、長野県内外消防機関の皆様方に感謝申し上げます。

令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練  
長野県実行委員会事務局



「令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練 実施結果報告書」

発行年月 令和4年3月

発行者 令和3年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練長野県実行委員会  
<事務局>

〒380-0917 長野県長野市大字稲葉字八幡田沖 2413-11

長野県南俣庁舎3階

